

「七尾と戦争」事実拾い集め

本出版の角三さん調査に30年

石川県七尾市の太平洋戦争末期の中国人強制連行や終戦直後の機雷被害などを三十年以上調べる同市本府中町の元小学校教員、角三外弘さん(セツ)。今年春、地道な調査と聞き取りの成果として自費出版した「七尾と戦争」には、自身で解読して復刻した貴重な資料も数多く掲載されており、「この本をきっかけに、新たに研究する人が出てくるのでは」と期待を込める。

(大野沙羅)

七尾市には戦時の労働力を補う 務省外交史料館(東京都)に保存 国策に従い、一九四四年秋〜四五 される、中国人を働かせた事業所 年春に中国人三百九十九人が連行 の「事業場報告書」本文を載せ され過酷な労働で十五人が死亡し た。角三さんは教壇に立ちつつ、 八〇年代からこつした七尾の戦争 った三百九十九人の就労経過をま の歴史を調べるようになった。 とめた「附表」、犠牲者の死亡経 緯を記した「附書」などを新たに 二〇一九年に出版した「七尾港 掲載した。同館へ何度も通い原資 中国人強制連行の記録」では外 料を閲覧・解読して、不鮮明で読

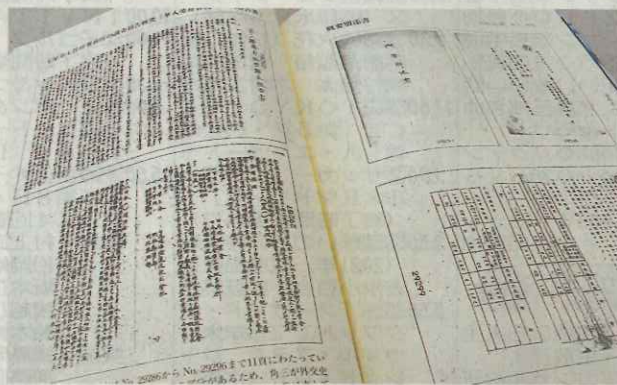


七尾の戦争の歴史を丹念な聞き取りや調査でま とめた角三外弘さん。石川県七尾市本府中町で

強制連行資料 復刻 / 機雷で沈没 その後追う

めなかつた部分も明らかにした。 資料には給与、作業着や食糧な どの支給、作業中の負傷など詳細 記録が並ぶ。狭い宿舎に押し込め られ、パン支給だけで風呂に入れ ず、多くが失明を含む眼病や皮膚 病などを患った過酷な実態が伝わ る。

終戦直後の一九四五年八月二十 八日、勤労動員された人たちを乗 せた「第二能登丸」が七尾湾で米



著書に掲載された強制連行関連の 資料。不鮮明な部分は角三外弘さ んが原書を閲覧、判読し復刻した

軍敷設機雷に触れ爆発し沈没して 二十八人が亡くなった遭難事件に ついても詳しく触れた。

遭難は発生当時の新聞で報道さ れず、不明部分が多かった。角三 さんが座長を務める県教職員組合 七尾支部の平和教育専門委員会が 八三年から調査し、生存者や遺 族、目撃者ら十人以上に取材。一 五〜一八年ごろには一人で別の生 存者や遺族四人を訪ねた。男性の 一人は当時小学生で、父と姉を亡 くした。爆発で海に投げ出され、 生き残った自身を責める言葉も口 にしたという。遺族らのその後の 苦勞も記録した。

「心の中のためにためておいたものを 本にしようと思った」。生存者や 遺族らに届けると涙を流して喜ば れたという。ロシアのウクライナ 侵攻など今も続く戦争の悲惨さを 憂える角三さんは「資料が膨大だ が、知らせることで世の中への働 きかけになれば」と願う。

本は二千五百円(税別)。当時 を説明する本文百三十五頁、資料 編二百十六頁。問い合わせは角三 さん。電0767(52)4889 へ。

七尾港での中国人強制連 行 七尾では過酷な労働で 15人死亡、栄養失調で64人が失明 した。元作業員らは2005年、国 と企業に損害賠償などを求め金沢 地裁に提訴(追加提訴含め原告6 人)。地裁は強制連行と労働事実、 国と企業の安全配慮義務違反を認 めたが、別の裁判で最高裁が「日 中共同声明で中国人個人の請求権 は放棄された」と判断したことを 踏襲し請求棄却。二審名古屋高裁 金沢支部も支持し、10年に最高裁 が上告を退け判決が確定した。